

「せめて大麻だけで済んでいたら」

大津 大学生や歯科医らが大麻取締法違反容疑で検査される中、民間の薬物依存症回復施設「びわこダルク」(大津市丸の内町)が29日、6周年フォーラムを大津市内で開催、大麻の元常習者3人も体験談を語る。日本では所持や栽培も禁止されているが、若者を中心に気軽に手を出す人が後を絶たない。大麻の問題性はどこにあるのか。ダルクの入所者に聞いた。【稲生 陽】

びわこダルク あすフォーラム

「大麻だけで済んで済んで来た。施設長で、(26)は、15歳で大麻いたら、ここにはいな 自らも覚せい剤の治療 を受けた。酒もたばこ かったと思っ」。寮生 を受ける猪瀬健夫さん もしないが、「大麻を 活を送る元大麻常習者 (44)は「大麻使用者に 扱った格好や音楽にあ の男女7人は、顔を見 特徴的なのは、全く罪 合わせながら言った。 悪感がないこと。だが、 中薬性は感じず、「い いずれも大麻から覚せい 大麻は他の薬への入り 口になる」と指摘する。 つでも、やめられる」 刑などの依存症とな 口になる」と指摘する。 つでも、やめられる」 刑などの依存症とな 口になる」と指摘する。 つでも、やめられる」

「薬物依存は病気」

入所者や家族 実態や苦しみを語る

びわこダルク フォーラム

大津 大津市丸の内町の薬物依存症回復施設・びわこダルクの6周年フォーラムが29日、「新たな出発」と題して同市生涯学習センターで開かれ、全国のダルク入所者や家族が依存症の実態や施設運営の課題などを話し合った。びわこダルクは08年度にNPO法人化。先月には障害者自立支援法の定める地域活動支援センターに認められ、今後新たな責任を担う。

同施設は02年11月の開設以来、72人の入所者を受け入れた。また、依存者をつい甘えさせ、家族から遠ざかると紹介してきた。先月出所したばかりのクニさん(35)も、出人もから金品をだまし取って生きてきた」と

薬物依存への「入り口」

元常習者が体験談

を扱うように。「一緒に売っている別の薬物も試したくなって」。依存症になり、覚せい剤を買った金欲しさに強盗や恐喝、詐欺を繰り返し、この10年の半分は少年院や精神病院、刑務所で過ごした。「も、大麻が酒やたばこと同じ合法だったら、最初から、やらなかつたかもしれない」と、好奇心から手を出した自分を悔いた。

女性入所者のミッキさん(49)は、20年前に夫と大麻栽培を始め

た。「バックパッカー」としてインドで大麻三昧の生活も送ったが、信条として人には売らず、他の薬物にも手は出さなかった。しかし、薬への垣根が低くなっていたため、32歳で離婚したのを機に覚せい剤に。一回だけと決めたが、快感の強さに驚き、「スブスブはまった」と証言する。

7人は現在、依存症による薬物への欲求に耐えながら、治療を続けている。最年少のタケさん(24)は「大麻だけは変えられる」と呼びかけている。問い合わせはダルク(077・521・2944)。

「バツバツ」と言葉に力を入れた。WHO(世界保健機関)の97年の報告書は、大麻について慢性使用から依存症になる可能性も指摘している。

フォーラムは29日午前10時、同市生涯学習センターで開催。びわこダルクでは、スタッフも含め18人が治療中で、「依存症は意志や根性だけで治すのは不可能と認めることから治療が始まる。『やめたい』という人が集まれば愛される」と呼びかけている。問い合わせはダルク(077・521・2944)。



「びわこダルク6周年フォーラム」会場では、入所者の手による抹茶もふるまわれた。写真は最年少入所者のタケさん(24)＝大津市生涯学習センターで

やめたいと思っても、次々現れ、必死で部屋を掃除しても、逮捕された。死のうとも思っ

た。だが、人を傷つけてきたからこそ、今度は誰かを助ける道を探した

「死のうとも思っ た。だが、人を傷つけてきたからこそ、今度は誰かを助ける道を探した」

また同日は、依存者 02年10月にリタリン

長男は病院で処方されたリタリンで依存症となり、離婚して仕事も辞めた後も、消費者金融から金を借りては薬を続けた。新井さんは長男のために800万円近くを投じ、自宅も失ったという。「依存症は病気。行政は治療面も考えてほしい」と話した。